

2026 (R8) 年度 教養学部学校教育学科 一般選抜 (中期) 講評

○課題文について

ジェームズ・J・ヘックマン著『幼児教育の経済学』(大竹文雄解説・古草秀子訳, 2015年 東洋経済新報社)の一部である。家庭の社会経済的状況により生じる子供の能力格差が前半部の論点であるが、後半部では、子供の能力格差が実は成育環境の質により生じていることが論点となっている。課題文は、幼少期の環境は非常に重要であることを示しつつも、しかしながら環境は改善できると結論し、「環境の質」という概念への再定義を主題とするものである。

○設問1 傍線部アで、筆者は「これらの物差しは子供がどのように育つかを決定するためのひどく大ざっぱな目安にしかない」と述べていますが、それはどういうことですか。課題文に即して、200字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づき文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。筆者が批判している従来の「物差し」とは何かを特定するとともに、それらが粗い指標にすぎない理由を筆者の主張に即して説明できているものに対し、高い評価を与えた。

【講評】

ここでの筆者の主張は、従来の指標だけでは子供の成長を十分に説明できないとの指摘である。解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、従来の指標が誤りであると誤読しているものや、統計データでは子供の成長を説明できないと誤解しているもののほか、文章構成力に欠ける解答が散見された。

○設問2 傍線部イで、筆者は「環境を変化させて子供の重要なスキルを向上させることは可能」と述べていますが、あなたはこれについてどう考えますか。課題文を踏まえながら、あなたの考えを、自分の体験や見聞を交えて800字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえ、自身の体験や見聞のうちで適切なものを事例に挙げ、論旨の通った文章を記述できるかを見る設問である。自身の体験や見聞を具体的に述べ、それを踏まえて学校や教師、地域社会などがどのように子供の環境を改善できるかを論理的に考察しているものに対して、高い評価を与えた。

【講評】

課題文を踏まえ、「学校教育学科志望者として、自身がどのように子供に関わり子供の環境を改善していくか」という点を考察しながら、自らの教育観を記述した解答が見られた。一方で、課題文をひとり親家庭や貧しい家庭への批判であると誤読しそれへの反論に終始しているもの、「環境を変化させる」について課題文における意味を踏まえていないもの、自身の考えを説得力をもって十分に展開できていない解答が散見された。